

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 12 月 12 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原 香鈴美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)		
チリ (サンチャゴ、ラセレナ、プンタデチュロス、プエルトモン、チロエ)		
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)		
チリの海棲哺乳類観察および野外調査補助		
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)		
平成 27 年 11 月 14 日 ~ 平成 27 年 12 月 2 日 (19 日間)		
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)		
ラセレナ大学 Alturu Cortes 博士、マガジャネス大学 Gino Casassa 博士		
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)		
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。		
<b>&lt;概要&gt;</b> 本出張では、南アメリカ大陸西岸に生息する多様な海棲哺乳類の野外観察と、チューターとしての訓練のために、同研究室の一山琴世さん (M1) の研究始動サポートをおこなうことを目的にチリへ渡航した。幸島先生と交友のある Dr. Gino Casassa に同行していただき、一山さんの研究対象であるビスカーチャの情報収集のために、Las Vertientes に行ったり、La Serena へカウンターパートを訪ねたりした。また、チリの鯨類研究者である Dr. Juan Capella と Dr. Jorge Gibbons を紹介していただき、ハラジロイルカ <i>Cephalorhynchus eutropia</i> とザトウクジラ <i>Megaptera novaeangliae</i> の研究に関するお話をうかがった。チリ中央部西岸の Punta de Churos と、南部山塊部寄りの Puerto Montt、チロエ島北西部の Punihuil にて船で海に出た。その結果、Punta de Churos で 4 種、Puerto Montt で 1 種、Punihuil で 2 種の海棲哺乳類を観察した。 また、サンチャゴ動物園、ラセレナ大学の訪問では、個人のつながりだけでなく、施設間の連携体制について前向きな姿勢を示していただいた。ラセレナ大学の Dr. Aruturu Cortes とお話しした際には、一山さんのカウンターパート依頼もおこない、調査地の紹介とともに、調査許可証の交付に関する協力の承諾もいただいた。 自身は、研究課題発見のためのサポートの難しさを学び、渡航前の準備や今後のサポートに対する課題に気づいた。また、現地人とのスペイン語でのコミュニケーションに苦戦したことで、フィールド調査における現地語習得の重要性を強く感じた。		
<b>&lt;内容&gt;</b> <b>サンチャゴ動物園、ラセレナ大学の訪問</b> 11/16 にサンチャゴ動物園 (National Zoological Garden of Chile)、11/19 にラセレナ大学を訪問した。サンチャゴ動物園では、学術的な研究窓口である Mr. Guillermo Cubillos Torres と Ms. Alejandra Montalba Zalaquett にお会いし、園内を案内してもらい、ミーティングにて将来的には、研究連携施設となるようお願いをおこなった。サンチャゴ動物園では、現在チリで個体数が減少しているフンボルトペンギンの域外保全を行うために、下関市立しものせき水族館 (海響館) と共同で、育児放棄された卵の人工孵化活動をおこなっている。その他日本の飼育施設ともつながりが強く、今後の研究連携機関として前向きな姿勢を示していただいた。		
		
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>		

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ラセレナ大学の訪問は、機関新聞にも取り上げられた(参照: [Visita la ULS y el CEAZA delegación de la Universidad de Kyoto liderada por pionero de la investigación glaciológica mundial](#), 20. Nov. 2015)。この時は、連れて行っていただいた Alminate la torre というフィールドでは、研究対象のビスカーチャを直接観察するには至らなかったが、糞などの痕跡を十分に発見することができた。一山さんは、他の調査候補地も下見後、研究計画を再構築するために、12月中旬に一時帰国することを決めた。

### 野生ビスカーチャ生息情報の収集

11/17、18にサンチャゴ郊外の Las Vertientes を訪れ、Dr. Gino Casassa 同行の元、現地にて野生ビスカーチャの情報収集をおこなった。案内人の予定と合わせ、12月に再訪問をする計画を立てている。



### 鯨類研究者とのコンタクト

Dr. Gino Casassa より、チリ在住の鯨類研究者である Dr. Juan Capella と Dr. Jorge Gibbons を紹介していただき、ハラジロイルカ (*Cephalorhynchus eutropia*) とザトウクジラ (*Megaptera novaeangliae*) の研究に関するお話をうかがった。スケジュールの関係上、彼らの調査地であるチロエ島最南部の yaldad bay や、チリ南部のアルゼンチンとの国境付近に位置する Punta Arenas を訪れ調査船に同行させていただくことはできなかったが、今回のコンタクトにより次の機会では実現が期待できる。

### 野生海棲哺乳類の船上観察

11/22にチリ中央部西岸の Punta de Churos、11/26に南部山塊寄りの Puerto Montt、11/28にチロエ島北西部の Punihuil にて船で海に出た。その結果、Punta de Churos で4種、Puerto Montt で1種、Punihuil で2種の海棲哺乳類を観察した。また、全海域で多くの海鳥も観察することができた。この内、Punta de Churos で観察したハンドウイルカは、私が今まで日本やニュージーランドで遭遇した野生ハンドウイルカの観察地点よりも、より沿岸部であった。チリでのハンドウイルカに関する研究は少ないため、他地域との生息地利用の違いやその要因の解明は研究課題になりうるだろう。他にも野生オタリアが港や連絡船付近を利用することによる人との対立や、サンチャゴ動物園が取り組むフンボルトペンギンのコロニーの遺伝的多様性保全活動など、科学者の知見が必要な課題が多く見られた。



## 6. その他 (特記事項など)

現地での研究者とのコンタクトやフィールド選定に多大な協力をいただいた Dr. Gino Casassa と奥さんの Clod さんをはじめ、言語や生活を全面的にサポートしてくださった堤真さま、Nancy さん、Mr. Aico、Mr. Gonsaro、Mr. Roberto に心より感謝申し上げます。